

# 福田百合子先生を囲む朗読会

## ——金子みすゞと「山口の朗読屋さん」——

林 伸 一

### 1. はじめに

ボランティアグループ「山口の朗読屋さん」は、2019年11月30日（土）午後2時～4時の二時間、小郡地域交流センター（小郡下郷609-1）にて「福田百合子がみすゞを語る 朗読＋ハーブ演奏＋お話を会」を開催した。当日は、68名（定員70名）の参加者があった。

同会は、次のような二部構成で実施された。

第一部：金子みすゞ『空のかあさま』朗読＋Chifumiさんのアイリッシュ・ハーブ演奏

みすゞの朗読（山口の朗読屋さん）＋ハーブ伴奏＋福田百合子先生によるお話

第二部：参加者の中の希望者が自由に選んだみすゞの詩の朗読

主催は、山口の朗読屋さん（山口市）であるが、山口市教育委員会と山口県教育カウンセラー協会に後援していただいた。

あらかじめ新聞各社や放送局には、同会の案内を出して、当日の取材を歓迎する旨を伝えてあったのであるが、取材に来てくれたのは二社だけで、その内の一社、長周新聞だけが記事にしてくれた。2019年12月4日付けの長周新聞の記事を以下に示す。

「福田百合子がみすゞを語る」と銘打って童謡詩人・金子みすゞの詩をハーブ演奏とともに朗読し、元山口県立大学教授の福田百合子氏が作品について話す会が、山口の朗読屋さん（林伸一会長）の主催で二月三〇日午後二時から四時まで、山口市の小郡地域交流センターで催され、定員七〇人の会場が満席となった【写真】。

山口の朗読さんのメンバーのおよび希望者の二人が絵本『空のかあさま』に収録されている『大漁』『わたしと小鳥やわかめむすびなど』を朗読し、ハーブ奏者の上利千富美氏が即興で伴奏した。

福田百合子氏は、みすゞの詩について「弁天島

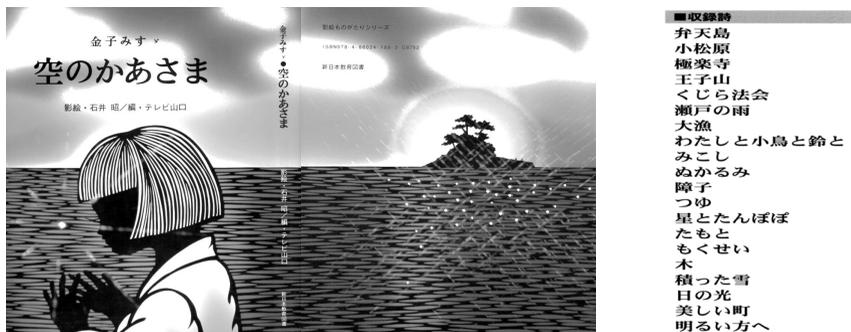


### 山口・福田百合子がみすゞを語る 詩の朗読やハーブ演奏も

すゑが生活した仙崎の漁師町の風景や日常生活がそのまま出ているが、着眼点がおもしろく、ユニーク。女性的で、哲学的でもある。近代感覚もあつて今読んでても古くない。中原中也より四歳年上で、『婦人画報』にみすゞと中也の詩が同時に掲載されたが二人に接点はなかったなと語った。

## 2. 使用テキストと朗読会の構成

当日の朗読に用いたのは、金子みすゞ『空のかあさま』（影絵：石井昭／編・テレビ山口1997：以下、影絵版『空のかあさま』と略記）であった。同書には、次に示すように20編の金子みすゞの詩が収録されている。あらかじめ出版元の新日本教育図書に、同作品を当日パワーポイントで映写し朗読するために「著作物利用許可申請書」を提出し、「上記の著作物利用については、著作権者に無許諾で使用できます」との回答を得ている。



第1部と第2部に分けて実施したのは、主催者の「山口の朗読屋さん」だけの一方的な朗読会ではなく、参加者も朗読することができるように双方向の朗読会を実現したかったためである。

第1部では、「山口の朗読屋さん」の中から5名が15の詩を朗読し、それぞれに詩の背景などを福田百合子先生に解説していただいた。

第2部では、7名の参加者が12の詩を朗読した。ただ単に聞いて参加するだけでなく、自分も朗読してみることによって、金子みすゞの詩が実感を伴って、より身近なものになったのではなかろうか。

家族内での読み聞かせや図書館などでの一人か二人の目の不自由な方や高齢者などを対象とした対面朗読などの経験者であっても、多くの人の前での朗読には、ためらいを感じる場合もあるだろう。今回の朗読会が人前でのイベント型朗読会や劇場型朗読会のためのスキルアップにつながったと思われる。（詳しくは、林2020a参照）

この開催形式は、山口県の「やまぐち若手文化人等スキルアップ支援事業」からの助成を得ている関係から、他の朗読会でも一部と二部に分けて、一部を主催者による朗読、二部を参加者による朗読として、参加体験型の朗読会とするように心がけている。

本朗読会は、「やまぐち若手文化人等スキルアップ支援事業」の助成を得ていることから、主催者よりも若手の参加者を期待していたのであるが、当日の参加者は、主催者とほぼ同世代か、それ以上の年配の方の参加が目立った。そこで、「やまぐち若手文化人とは、講師の福田百合子先生より若手の人」と定義することにしたいと思っている。

実施に当たっては、あらかじめ次の表1のような朗読プログラム時間進行表を作成した。

表1. 「福田百合子がみすゞを語る 朗読＋ハーブ演奏＋お話し」プログラム・進行表

時間	朗読する詩	朗読者＋解説者
14:00	代表あいさつ・講師と演奏者等紹介	林 伸一・講師：福田百合子先生
14:10	第1部 弁天島・小松原・極楽寺	田中範明・福田百合子先生のお話
14:20	王子山・くじら法会・瀬戸の雨	荒井佳恵・福田百合子先生のお話
14:30	大漁・わたしと小鳥と鈴と・みこし	金崎清子・福田百合子先生のお話
14:40	ぬかるみ・障子・つゆ	内藤充子・福田百合子先生のお話
14:50	星とたんぼぼ・たもと・もくせい	岡村久美子・福田百合子先生のお話
15:00	Chifumiさんによるハーブ演奏	上利千富美
15:10	休憩	トイレなどのご案内
15:20	第2部 木・積もった雪・日の光	山本加代子
15:30	美しい町／明るい方へ／ 梨の芯／木	隅野洋子／松重昭子／ 櫻井眞子／畑山静枝
15:40	芝草・わらい／老楓・船の唄・不思議	木村協子／山田一男
15:50	質疑応答・まとめ・閉会あいさつ	福田百合子・林 伸一

### 3. 詩の出典について

本朗読会のリハーサルを通して、気づいたことがあった。それは、金子みすゞ影絵版『空のかあさま』（1997）とJULA出版局の『空のかあさま 新装版 金子みすゞ全集・Ⅱ』（1984：以下JULA版『空のかあさま』と略記）では収録されている詩が異なるということである。

矢崎節夫ほかの編集によるJULA版『空のかあさま』には、以下の39編の詩が「空のかあさま」というくくりで収録されている。

表2. 『空のかあさま 新装版 金子みすゞ全集・Ⅱ』（1984）の中の「空のかあさま」

繭と墓／明るい方へ／行商隊（カラバン）／空の大川／蜂と神さま／女の子／お月さまの唄 ／夜ふけの空／芝草／人なし島／朝顔の蔓／麥のくろんぼ／入船出船／ぬかるみ／お使ひ／ 去年のけふ一大震記念日にー／お菓子／私の丘／花火／キネマの街／小さな朝顔／薔薇の根 ／秋／船のお家／海の人形／かりうど／土／闇夜の星／おてんとさんの唄／海の色／ひろい お空／七夕のころ／港の夜／ピラまき自動車／水すまし／杉と杉葉／駒鳥の都／夜／風
---

以上39編のうち影絵版『空のかあさま』に収録されているのは、「明るい方へ」と「ぬかるみ」の二編だけである。

また、金子みすゞの作品の中に「木」というタイトルの詩が二編あることがわかった。

次頁の左側の「木」が、影絵版『空のかあさま』に収録されており、JULA版『空のかあさま』の中にも「花のたましい」というくくりの中に収録されている。それに対して右側の「木」は、JULA出版局の『美しい町 新装版 金子みすゞ全集・Ⅰ』に収録されている。

本朗読会では、左側の「木」と右側の「木」が第2部で読まれた。

(4)

**木**

小鳥は  
小枝のてっぺんに、  
子どもは  
木かげのぶらんこに、  
ちっちゃな葉っぱは  
芽のなかに。

あの木は、  
あの木は、  
うれしかる。

**木**

お花が散って  
実が熟れて、  
その実が落ちて  
葉が落ちて、  
それから芽が出て  
花が咲く。

そうして何べん  
まわったら、  
この木は御用が  
すむかしら。

金子みすゞ

(朗読者・畑山静枝)



左側は、石井昭氏による影絵である。右側は朗読者の畑山静枝さんによる写真で「里山の私の好きな木、ユリノキをイメージして、みすゞさんの『木』を選び、朗読させていただきました。里山に住んでいて、この詩がぴったり合います」との言葉が添えられた。(注1)

別の作者による同名のタイトルの詩はあるだろうが、同一の作者による同名のタイトルの詩は珍しいのではないだろうか。編集者によって、詩の取捨選択が異なることもあるので、当日は、朗読会会場にみすゞの本をできるだけ多く展示するようにした。

#### 4. 「福田百合子がみすゞを語る 朗読＋ハープ演奏＋お話し」アンケート集計結果

全参加者68名から42名のアンケートが回収されたので、以下に結果を開示する。

<1> この朗読＋お話しをどのようにお知りになりましたか？をつけてください。

はがき<sup>18</sup> 新聞<sup>4</sup> (山口新聞<sup>1</sup>・毎日新聞<sup>1</sup>・長周新聞) 知人<sup>10</sup> 友人<sup>5</sup>

その他<sup>7</sup> (金子みすゞと金澤翔子の世界・主催者・小郡地域交流センター・アーサービナード朗読会・その他)

<2> 特に印象に残った詩の朗読は、どれですか？

星とたんぼ<sup>6</sup> くじら法会<sup>5</sup> 積もった雪<sup>4</sup> もくせい<sup>3</sup> 大漁<sup>3</sup> ぬかるみ<sup>3</sup>

わたしと小鳥とすずと<sup>3</sup> たもと<sup>2</sup> みこし<sup>1</sup> 老楓<sup>1</sup> 船の唄<sup>1</sup> ふしぎ<sup>1</sup>

明るい方へ<sup>1</sup> つゆ<sup>1</sup> 全部<sup>1</sup>

(5)

<3> 今回の朗読+お話会の「朗読」について、どう思いますか？

とても良かった⑳ 良かった⑥ どちらとも言えない① 改善の余地あり①  
無記入① (とても良かった⑳+良かった⑥=40 回答者全体のうちの95.2%)

<4> 今回の朗読+お話会の「福田先生のお話」について、どう思いますか？

とても良かった㉑ 良かった① どちらとも言えない① 改善の余地あり①  
無記入① (とても良かった㉑+良かった①=40 回答者全体のうちの95.2%)

<5> 今回の朗読+お話会の「ハーブの演奏」について、どう思いますか？

とても良かった㉒ 良かった⑨ どちらとも言えない① 改善の余地あり②  
無記入① (とても良かった㉒+良かった⑨=40 回答者全体のうちの95.2%)

<6> 次のどれに興味・関心がおありですか？(複数回答可)

朗読会㉓ 朗読カフェ(お茶+朗読会) ㉔ ブック・トーク(本のお話会) ㉕  
朗読マラソン(リレー朗読) ⑧ ビブリオバトル⑦ ヒューマン・ライブラリー⑦  
哲学カフェ⑤ 読書会②

<7> 次のどの作家の朗読会・読書会などに参加なりたいですか？

中原中也㉖ まどみちお㉗ 金子みすゞ⑮ アーサー・ビナード⑬  
ほか④(工藤直子)(八代の鶴にかかわる本があれば)

<8> 今回の催しに関して、ご意見・ご感想をご自由にお書きください。

自由記述の内容は、「朗読と企画について」「福田百合子先生について」「ハーブの演奏について」などに分けて次項に示す。( ) 内に年代と性別を示すが、(0)は年齢性別無記入者である。また、項目ごとに分析し、フォローアップの内容を示す。

<9> もし差支えなかったら性別と年齢をお知らせください。

(男性③・女性㉘) 性別無記入⑭

年齢(20代①・30代①・40代①・50代①・60代⑭・70代⑱・80代④・それ以上①)

無記入③ 年齢無記入③(60代~80代の合計が36名)

ご協力、ありがとうございました。

上記の<1>「金子みすゞと金澤翔子の世界」とあるのは、2019年10月26日に小郡ふれあいセンターでの小郡みすゞガーデンをつくる会5周年記念のイベントのことである。

定員400名をはるかに超える600名が参加し、立ち見が出るほどの盛況であった。同イベントで、本朗読会のお知らせを配布させていただいた。

また上記の<1>「アーサー・ビナード朗読会」とあるのは、2019年8月11日に同じく小郡ふれあいセンターでの山口の朗読屋さんが「アーサー・ビナードとともに平和を考える朗読会」を開催した際に、本朗読会の案内をさせていただいたことによる。(林2020b参照)

#### 4-1-1. 朗読と企画について

\*金子みすゞの詩は、少しだけ知っていたが、多くの詩の朗読をきいて、みすゞの優しい素直な心につれて、すっかりファンになりました。(70代・女性)

\*金子みすゞの詩の中で、あらためて好きになった詩がいくつも増えました。(60代・女性)

(6)

- \*初めてたくさんの詩をききました。やさしい一日になりました。また、聞けるときがあったらと思います。金子みすゞさんの詩を好きになりました。(70代・女性)
- \*初めてこういう会に参加させていただき、いい時間をいただきました。(70代)
- \*豊かな気持ちにさせていただきました。ありがとうございました。(0)
- \*朗読と福田百合子先生の解説とハーブの演奏が影絵とよく合っていました。影絵に興味を持ちました。(60代・女性)
- \*朗読、ハーブ、福田先生のお話よかったです。お茶、菓子などもあり、楽しい会でした。(70代・女性)
- \*Oさんの大ファンです。彼女の朗読は心に響きます。(70代・女性)
- \*Nさんの声は、とても素敵でよかったです。(40代)
- \*とてもよかったです。心洗われる至高の時間でした。(60代)
- \*みなさん朗読すばらしい。(80代・女性)
- \*とても和やかで、良い雰囲気、すばらしい朗読とハーブの演奏が聞けて、とても良かったです。(60代・女性)
- \*詩とハーブ、福田先生のお話とても素敵でした。(70代・女性)
- \*マイクの使い方一考かな?(70代・女性)
- \*思いがけない楽しい朗読会に喜んでます。ありがとうございました。(70代)
- \*とても楽しく、次回を楽しみにしています。(60代・女性)

(上記自由記述の中の福田百合子先生以外の固有名詞は、アルファベットで示した)

#### 4-1-2. 「朗読と企画について」の分析とフォローアップ

今回の朗読会は、金子みすゞの詩を題材に行なわれたこともあり、「金子みすゞさんの詩を好きになりました」(70代・女性)「金子みすゞの詩は、少しだけ知っていたが、多くの詩の朗読をきいて、みすゞの優しい素直な心にふれて、すっかりファンになりました」(70代・女性)「金子みすゞの詩の中で、あらためて好きになった詩がいくつも増えました」(60代・女性)との声が聞かれてとても嬉しく、主催者としては、実施して本当によかったと改めて感じた。

また今回の朗読会は、「金子みすゞの詩の朗読」と「石井昭の影絵」、「福田先生のお話」に「Chifumiさんのハーブ伴奏」がコラボする形で企画され、実施されたのだが、「朗読と福田百合子先生の解説とハーブの演奏が影絵とよく合っていました」(60代・女性)や「詩とハーブ、福田先生のお話とても素敵でした」(70代・女性)などの声から、企画のねらいが支持されたとの印象を持つことができた。

#### 4-2-1. 福田百合子先生について

- \*福田先生のおしゃれもすてき!! 拍手!! (70代)
- \*やはり福田先生のお話は面白い! また、聞きたいと思います。福田先生ファッションも朗読会の楽しみの一つでした。お疲れ様でした。(60代)
- \*また同様の催しがあれば参加してみたいと思います。福田百合子先生の解説分かりやすく、非常によかった。(60代・男性)

- \* 福田先生のお話は、ユーモアがあり、楽しいお話でした。(60代・女性)
- \* 福田先生のユーモアあふれる解説がとても楽しく、わかりやすかった。(60代・女性)
- \* 休憩時間にお茶の接待があったのは、良かったと思います。福田先生のお話は、いつもとても楽しく、めずらしい話も聞いて、これからも楽しみです。(70代)
- \* 参加して、ほんとうに良かった!! 生福田先生にもお会いでき感激しました。宇部から来たかがありました。(70代・女性)
- \* 若々しい百合子先生に感謝!! (80代・男性)
- \* 福田先生のお話とてもよかったです。ありがとうございました。(40代)
- \* 参考になりました。(70代)
- \* ステキな福田先生のお話とともに皆様のステキな朗読、そしてハーブの音色のgood。土曜の昼下がり、ホットなひとときでした。ありがとうございました。(60代・女性)

#### 4-2-2. 「福田百合子先生について」の分析とフォローアップ

講師の福田百合子先生は、いつもおしゃれなことでも注目されているが、朗読会当日は、着物地の鯨小紋をスーツに仕立てたものを着ていらっしやっただけで、みずびに合せてシックな服をチョイスされたとのこと。

山口県立大学名誉教授、中原中也記念館名誉館長というお立場から、ともすると福田百合子先生は気軽には声をかけづらく、雲の上の人のように思われているかもしれない。しかし、素顔の福田百合子先生は、雲上人というよりは、世間話が好きで、気さくで楽しい人である。90歳を超える年齢とは到底思えない元気で快活で聡明な人である。アクティブシニア世代の憧れの的であると言えるであろう。



「アクティブシニア」とは、趣味や仕事などのさまざまな活動や消費行動に意欲的な、シニア層の総称であり、自分なりの価値観に基づき、生き活きと人生を謳歌している年配の人々である。

本朗読会にも60代～80代のアクティブシニア層が多数参加して、朗読やハーブの音色だけでなく、「福田先生のユーモアあふれる解説」「福田先生ファッション」「福田先生のおしゃれ」を楽しみ、「生福田先生にもお会いでき感激しました (70代・女性)」とスターの追っかけのようなファンがいることがわかる。

福田先生は、2019年9月29日に「シャンソンと百合子の部屋」に歌手の松崎雅子さんとともに出演し、サンフレッシュ山口（湯田温泉）の会場を満員にする活動もしている。ちなみに、それは西日本豪雨災害の復興チャリティーコンサートとして実施された。

福田百合子先生には、2019年1月と2月の二回に分けて山口県立図書館研修室で実施された「福田百合子が中也を語る一朗読＋お話会」においても講師を務めていただき、中原中也の詩の背景などを解説していただいた。(詳細は、林2020a参照)

また、福田百合子先生は2019年8月11日に小郡ふれあいセンターで実施された「アーサー・ピナードとともに平和を考える朗読＋お話会」にも参加してくださり、『さがしています』(童

心社)の中の銀行石段の「いらっしゃいませ いらっしゃいませ」の詩を分担朗読してくださった。そのあとの懇親会にも参加して下さった。(詳細は、林2020 b 参照)

#### 4-3-1. ハープの演奏について

- \* ハープ演奏は初めて生で聞いて感動しました。(70代・女性)
- \* ハープがとてもすてき、ブラボー!! また、ききたい。すばらしい企画! ありがとうございます。また、参加させてください。(70代)
- \* 音楽と詩の朗読のハーモニーが心地よかった。(60代)
- \* 初めて生ハープ演奏を聞きました。弦にもさわらせていただき良かったです。(70代・女性)
- \* ハープまで加わって、すばらしい会でした! CDを注文しました。(80代・男性)
- \* ハープの伴奏もよくあっており、よかったと思います。(60代・男性)
- \* ハープに大変興味を持ちました。(80代・女性)
- \* 朗読の音とハープの音の調和を少し考えた方がよいのでは。ハープの音が強すぎる。  
ハープは、マイクなしの方が良かったのでは? (80代・女性)
- \* とても得した気分。詩の朗読と解説とハープの音色、すてきでした。ただ、ハープの音が強いと朗読が聞こえにくい時がありました。(60代・女性)
- \* ハープの前の席だったので、音が大きすぎたり、朗読の声が小さくて、朗読の声が聞こえ辛かった時がありました。(60代・女性)
- \* 詩の世界とハープの調べがとてもマッチしていてよかった。詩によってハープを使い分けておられたのが、印象的だった。「くじら法会」の低く重いハープの音色がとてもよかった。ハープの音量がもう少し小さいほうがよいのでは? (60代・女性)
- \* とても良い企画だと思いました。ただし会場がせまいので、緑のハープの音が大きくて、朗読の声が聞こえにくいことがあり、声を大きくすれば雰囲気がちよっと…。惜しかったです。(80代・女性)
- \* スピーカーの音が少し大きく感じました。詩を読まれる方の音(声)をもう少しじっくり聞けたらいいなと思いました。でも、とても良かったです。(40代)
- \* とても素敵な演奏、朗読、福田先生のお話と続き、充実した時間を感じることができ、感謝します。音楽と朗読とのバランスを少し考えさせられました。主と従のバランスをとることも大切だと感じました。本日参加して良かったです。(60代・女性)

#### 4-3-2. 「ハープの演奏について」の分析とフォローアップ

会場の山口市小郡地域交流センターは、建て替えて開館したばかりの真新しく立派な建物で、音響効果も考えての設計であると思われた。

日本では、アイリッシュ・ハープとして知られているケルティック・ハープの演奏者のChifumiさんが、朗読会場に2台のケルティック・ハープを持ち込み、その2台を駆使して演奏された。アメリカシアトルの弦楽器メーカー Dusty Strings (ダスティ・ストリングス) 製の34弦のハープとイタリアのSalvi Harps (サルヴィ・ハープ) 製のUNA (ウーナ) 38弦のハー

ブである。

Chifumiさんは、その場の即興演奏により、朗読の伴奏をしてくださいました。「ハーブ演奏は初めて生で聞いて感動しました」(70代・女性)との声も聞かれた。また、アンケートのような改善点も示された。

一部の終わりに、Chifumiさんの演奏の時間が設けられ、アイルランド民謡「Down By The Salley Gardens (ダウン・バイ・ザ・サリー・ガーデンズ)」などが演奏された。また、Chifumiさんの初めてのCD「Fairy」より、Chifumiさんのオリジナル曲「ガイアの祈り」も披露された。

「こどもと本ジョイントネット21・山口」のブログで山口智子さんは、次のようにコメントしている。(https://blog.canpan.info/jointnet21/より)

「福田先生の楽しいお話、みすゞの優しいけれど奥深い詩と会員の皆さんの練習を重ねられた朗読と一般参加の方々の味わい深い朗読、ケルティック・ハーブの素朴で優しく柔らかく繊細な音色が一体となって、琴線に触れました。これは個人的見解ですが、Chifumiさんの演奏と朗読のコラボを今まで色々聞いてきましたが、ハーブとみすゞの詩がベストマッチだと思います」。



#### 4-4. 影絵作家としての石井昭氏の作品について

石井昭氏は、1933年カナダ、ブリティッシュコロンビア州バンクーバー市で生まれ、早稲田大学法学部を経て宇部興産に入社。その後テレビ山口(TYS)へ異動となり、影絵作家としてのキャリアをスタートさせた。アメリカ、ドイツのマルチイメージコンクールでブロンズ賞を受賞し、1981年に日本マルチイメージ協会初代理事長に就任した。テレビ山口では取締役を経て顧問を務めた。著書に『光をめざして走れ—時代をさきがけた吉田松陰—』(古川 薫・文/新日本教育図書)があるが、まだ、同作品は「山口の朗読屋さん」の朗読会には使われていない。いずれ朗読テキストとして用いる可能性がある。

また、本朗読会では、「影絵に興味を持ちました。(60代・女性)」との声もあったが、2019年1月と2月の二回に分けて山口県立図書館研修室で実施された「福田百合子が中也を語る—朗読+お話し会—」においても石井昭氏による影絵本『汚れっちまった悲しみに…』(福田百合子監修/新日本教育図書)がテキストとして使われた。(詳しくは、林2020a参照)

2019年6月29日の山頭火ふるさと館での「山頭火の影絵句集の朗読+お話し会」では、『種田山頭火・うしろすがたのしぐれてゆくか』(石井昭・影絵/石寒太・文/新日本教育図書)がテキストとして使われた。「山口の朗読屋さん」が朗読し、高張優子学芸員が解説した。

2020年10月11日の小郡ふれあいセンターでの「没後80年記念 おごおり山頭火祭~生み出す力~」においても「山口の朗読屋さん」が『種田山頭火・うしろすがたのしぐれてゆくか』を朗読した。体育館の大型スクリーンに同書の影絵が大きく投影された。

2021年1月30日実施の「福田百合子先生を囲む朗読会」の朗読会テキスト『シベリアの豆の木—香月泰男ものがたり—』も石井昭氏の影絵本である。山口県にちなんだ「影絵ものがたりシリーズ1~5」の作品が、今後においても朗読会の題材となる可能性が大いにある。

その他の作品としては、中村徹哉原作の『珈琲タイムの考古学』新日本教育図書(1996)や

本人の体験をもとにした『僕の東京が燃えた』新日本教育図書（1997）などがある。

## 5. 「山口の朗読屋さん」の活動について

山口児童館の朗読教室を拠点に活動しているボランティア団体「山口の朗読屋さん」であるが、「ハートホーム平川」や「マザーベル湯田温泉」などの老人施設に訪問公演してきた。さらに「福田百合子先生を囲む朗読＋お話会」を県立図書館や小郡地域交流センターなどで実施してきた。かつては、所属メンバーが練習して観客に向かって朗読する発表会形式であったが、最近では参加者が、朗読を体験できるワークショップの可能性を模索している。さらに、児童施設・子ども食堂・老人施設等への訪問公演を通して、青少年や高齢者が少しでも明るく、楽しい文化的な生活ができるようにしていきたいと考えている。紙芝居や絵本、詩の朗読を通して、日本だけでなく、世界を広く知るために、「アーサー・ビナード研究会」などの活動にも参加しながら、見聞を広げてゆきたい。（林2020b参照）

懐かしい過去を振り返り、回想や思い出に浸るだけでなく、好奇心を持ち、興味や関心を広げることで若さを維持し、若返りに寄与できると考えている。子どもから大人まで互いの朗読を聞き合ったり、歌ったりすることでストレスが和らぎ、健康になることを願っている。可能な限り、要望に沿って出前公演を引き受ける態勢をとっている。

2019年6月に山口市内図書館友の会が『本のなかまたち—山口市読書グループ情報誌—』を発行し、その中に「山口の朗読屋さん（街の朗読屋さん）」も紹介された。

2020年、その情報誌の内容が山口市立図書館のホームページにアップされたため、誰でも見られるようになった。（<https://www.lib-yama.jp/tool/tool200607.html>）

地域に根付いた出張公演が実現できれば、明るく、楽しい文化的な老後の生活ができるようになる。周りの人間関係も良くなり、長生きする意欲や生きがい生まれてくる。

老人施設の利用者だけでなく、出張公演をする側もスキルアップが期待でき、利用者に喜ばれ、再訪が期待されることにより、やりがいと生きがいを感じるようになる。

本朗読会で山田一男氏によって朗読されたみすゞの「老楓」「船の唄」などは、年老いた者に対するねぎらいと共感を感じさせる作品である。ちなみに山田一男氏はかつての「街の朗読屋さん」だったころのメンバーで朗読会当日は、埼玉からかけつけてくれた。

2019年から2020年にかけての「山口の朗読屋さん」の主な活動は以下の通り。

### <1> 高齢者施設「ハートホーム平川」への訪問公演

ハートホーム平川は、2019年と2020年の1月・3月・5月・7月・9月・11月の各第4月曜日に訪問公演することができた。各回午後2時から3時の一時間の間に、紙芝居や絵本・詩の朗読を行ない、季節ごとの童謡を歌うようにした。2019年7月から2020年1月までは、ギターとオカリナによる伴奏をつけることができた。広間横の控室で、事前の打ち合わせと準備、事後の反省会と次回の日程の確認などを行なった。施設のスタッフも好意的で、事前にスクリーン、ハンドマイク、拡声器などを用意しておいてくださる。控室での反省会のときも、お茶とお菓子を出してくださるなどの配慮がある。

みすゞの詩を世に広めたことで有名な矢崎節夫氏の紙芝居「トラより強いカエルくん」「三

人きょうだい」「おおみそかのおきゃくさま」(注2)、磯永秀雄の紙芝居「鬼の子の角のお話」「天狗の火あぶり」や「かぐや姫」「広がれ!! 疫病鎮めの妖怪ガガビエ物語」(注3)などを上演した。

普段、他人と話すことが少なくなり、孤独を感じる人が多い老人施設の高齢者も出張公演者とのコミュニケーションをはかることができるようになった。声を出して朗読したり、童謡を歌うことにより、口を動かし、口内の唾液の分泌が盛んになり、免疫力が向上すると言われている。よく笑うことでも免疫力が向上し、心身の健康に役立つと思われる。特にメンタルヘルスの向上に貢献することができると考えられる。

2020年は、新型コロナウイルスの感染予防のために、イベントが自粛される中で、ハートホーム平川への訪問公演は3月・5月・7月・9月・11月も従来通り実施された。事前の打ち合わせを行なった上で、入り口での体温チェック、マスク着用、体調不調者の不参加などを徹底した。コロナ禍にも拘らず、施設として外部に閉鎖的にならず、暖かく迎え入れてくれ、歓迎してくれた。今後も、工夫して同所への訪問公演を続けていきたい。

#### <2>高齢者施設「マザーベル湯田温泉」への訪問公演

2019年12月9日(土)に「マザーベル湯田温泉」訪問公演を行ない、紙芝居や絵本の読み語りを行なった。同年2月に訪問公演で実施した紙芝居や絵本とは別メニューでクリスマス公演を実施することができた。設置されている大型テレビ画面にパワーポイントを直接接続できるため、画面が鮮明で見やすく、歌の歌詞や詩を文字で示して、利用者と一緒に歌ったり、詩の朗読をしたりすることができた。上演後に別室で反省会を持つことができた。

2020年は、残念ながらコロナ禍で、訪問公演を実施できなかった。

#### <3>下松老人福祉会館「玉鶴」への訪問公演

2019年9月11日(水)に下松老人福祉会館「玉鶴」(館長・廣中作次)を訪問し、玉鶴大学講座として狂言紙芝居「ぶす」(長野ヒデ子・作/本多ちかこ・絵)や絵本「空のかあさま」の読み語りを行なった。当日は、約80人の地域の高齢者が熱心に参加してくれた。

2020年9月9日(水)に9月玉鶴大学講座として「どんとこい三途の川」「きつねの盆踊り」という高齢者用紙芝居を上演し、絵本の「父さんがかえる日まで」「ウトウとクイナ」「そもそもオリンピック」(アーサー・ピナード作/スズキコージ画)の読み語りを行なった。

当日は、新型コロナウイルス対策として、舞台にはビニールでのしきりスクリーンを設置し、マスク着用の態勢で行なわれたが、約70人の下松地域の高齢者が参加してくれた。

#### <4>山口児童館への訪問公演

フリーペーパー「サンデー西京」への告知を媒介に山口児童館での児童生徒への紙芝居や絵本の読み語りが2019年7月20日(土)に実現した。紙芝居「トラより強いカエルくん」「どっかーん、花火」「みいちゃんの夏」などを上演した。

この公演を機に児童館でのリハーサルや練習の場も提供してもらうようになった。

2020年4月からは、やまぐちカルチャーセンターから山口児童館へ「山口の朗読屋さん」の

朗読教室を移して活動することとなった。

同年9月12日(土)には、「かぐや姫が下豎小路にやってくる」と題して、紙芝居の「かぐや姫」「広がれ!! 疫病鎮めの妖怪ガガビエ物語」などを上演した。絵本の「父さんがかえる日まで」(モーリス・センダック作・アーサー・ビナード訳)、大型絵本「もりのおふろ」(西村敏雄・作/福音館書店)の読み語りも行なった。約20名の児童生徒らが参加。

同年10月24日(土)には「じどうかんおはなしライブラリー」として紙芝居「一寸法師」「したきりすずめ」「おだんごころころ」「みいちゃんの秋」などを上演し、絵本「あつまるアニマル」(プライアン・ワイルドスミス作・アーサー・ビナード訳)の読み語りを実施した。約20名の児童生徒らが参加した。

ちなみに金子みすゞも「かぐやひめ-おはなしのうた2-」「一寸法師-おはなしのうた3-」「打出の小槌」という詩を書いている。JULA出版局の『美しい町 新装版 金子みすゞ全集・I』に収録されている。今後、みすゞの詩の朗読と紙芝居のコラボも考えられる。

### <5>三和児童館への訪問公演

2019年12月25日(水)に三和児童館クリスマス会への訪問公演を行ない、紙芝居「わすれんぼうのサンタさん」「マッチ売りの少女」「おおみそかのおきゃくさま」「みいちゃんの冬」や絵本「もしも、ぼくがサンタクロースと友だちだったら」の読み語りとクリスマスにちなんだ歌を参加者約30名とともに歌った。

2020年11月21日(土)には、「一寸法師が三和町にやってくる」と題して、紙芝居の「一寸法師」「広がれ!! 疫病鎮めの妖怪ガガビエ物語」「おだんごころころ」「モチモチの木」や絵本「あつまるアニマル」の読み語りを実施。約20名の児童生徒らが参加。

### <6>「えがお食堂」への訪問公演

2019年9月21日(土)には、山口市吉敷地域交流センターでの子ども食堂「えがお食堂」に合わせ、参加した児童・生徒を対象に大型紙芝居「おとうさん」「いなむらの火」や「こぶとりじいさん」や絵本「はらぺこあおむし」「だるまさんが」の読み語りを行なった。

ちなみに、金子みすゞの詩に「こぶとり-おはなしのうた1-」があり、『美しい町 新装版 金子みすゞ全集・I』(JULA出版局)に収録されている。

当日の様子が、9月25日付の宇部日報に「朗読屋さんが訪問公演・えがお食堂で絵本や紙芝居」という写真入りの記事が掲載された。宇部日報には、他の朗読会の告知記事も数多く掲載していただいている。

2020年は、新型コロナウイルス対策として、「えがお食堂」自体の休みが続き、訪問公演もできていない。

### <7>「おごおり山頭火祭」への招待公演

2019年10月11日(日)小郡ふれあいセンター体育館で、おごおり文化協会主催の「没後80年記念 おごおり山頭火祭～生み出す力～」が行われた。午後2時の開会で、自由律俳句の応募作品の発表、邦楽演奏などがあり、山口の朗読屋さんによる影絵本『種田山頭火・うしろすがた

のしぐれてゆくか』の朗読が45分間行なわれた。

当日は、新型コロナウイルスのために思うように観客が集まらず、定員400名の体育館にわずか50人という状態であったが、体育館という大舞台での朗読の機会が与えられてメンバーにとっては、舞台度胸をつけるいい機会となった。会場ロビーでは山頭火にちなんだ作品が展示されていた。

#### < 8 > 「県民活動フェスタ」への参加

2019年10月19日（土）に徳山駅前賑わい交流施設での「県民活動フェスタ2019」に参加した。徳山駅の図書館入り口前のスペースでの県民活動フェスタに参加して、大型紙芝居「おとうさん」や大型絵本「せんとくかあちゃん」の読み語りをステージ発表として行なった。

2020年10月24日（土）には、ルルサス防府2階多目的ホールで開催された「県民活動フェスタ2020」に参加した。大型紙芝居「したきりすずめ」「おだんごころころ」や大型絵本「うみキリン」（あきやまただし・作絵／金の星社）の読み語りを行なった。当日は、ほうふ市民活動フェスタ2020、Mama Festaと合同開催ということで、子供と保護者の参加が期待されたが、実際はほとんどが高齢者の参加であった。「県民活動の参観日」ということもあり、上演後、別室にて県民活動推進委員3名との情報交換会・懇談会がもたれた。

#### < 9 > 下関の田中絹代ぶなか館で紙芝居上演

2019年12月1日（日）、田中絹代ぶなか館名画劇場で「金色夜叉」上映会があり、その前座として、紙芝居の「金色夜叉」の上演を行なった。2018年11月4日（日）の紙芝居「愛染かつら」に引き続いての上演であったが、2020年は、コロナ禍でもあり、実施できなかった。

「山口の朗読屋さん」が同館を訪れた際には、田中絹代メモリアル協会事務局長で田中絹代記念館アドバイザーである河波茅子さんが、展示品を丁寧に解説して下さった。

「田中絹代ぶなか館」というのは愛称で、正式には「下関市立近代先人顕彰館」といい、公益財団法人「下関市文化振興財団」が運営している。

「山口の朗読屋さん」が同館を見学した後、近くの「金子みすゞ詩の小径（うたのこみち）」をメンバーとともに回り、詩碑に刻まれたみすゞの詩などを読み上げたこともあった。1時間ほどのコースの中には下関の代表的な建物も含まれている。

金子みすゞは現在の山口県長門市仙崎の生まれであるが、20歳から亡くなる26歳までを下関で過ごした。みすゞの詩の多くもこの時期に書かれたものとされている。

下関市唐戸周辺には彼女のゆかりの地と詩碑を訊ねて歩く約1.6kmの「金子みすゞ詩の小径」があり、以下のような10か所の詩碑もなかなか凝っていて、見ごたえがある。

- 1) 旧秋田商会ビル前 詩碑「障子」 2) 上山文英堂本店跡 詩碑「みんなを好きに」
- 3) 金子みすゞ顕彰碑（寿公園） 詩碑「はちと神さま」
- 4) 黒川写真館跡 詩碑「山の子濱の子」 5) 弁財天橋 詩碑「不思議」「砂の王国」
- 6) 商品館跡 詩碑「キネマの街」 7) 唐戸銀天街 詩碑「日の光」
- 8) 亀山八幡宮 詩碑「夏越まつり」 9) 三好写真館 詩碑「鶴」

## 10) 唐戸市場前 詩碑「私と小鳥と鈴と」

(<https://www.fugu-sakai.com/shimonoseki/karato/utanokomichi/>参照)



商品館跡に「キネマの街」の詩碑があり、『空のかあさま 新装版 金子みすゞ全集・II』JULA出版局に収録されている。また、同名の金子みすゞの童謡絵本もJULA出版局から2001年に発行されている。(左)金子みすゞの童謡詩の中から矢崎節夫が選び、深沢邦朗が絵を描いている。

山口県長門市出身の童謡詩人、金子みすゞが創作活動をした下関市で2020年2月16日、没後90年の記念イベントが開催された。みすゞと弟の上山雅輔(がすけ)を顕彰する団体が主催。下関少年少女合唱隊が童謡の合唱5曲を披露したほか、地元のみすゞ研究家、木原豊美さん(75)の講演もあり、約180人が詩の世界を味わった。

みすゞは1903年に現在の長門市仙崎で生まれた。20歳のときに下関へ移り住み、5年間で500編以上を創作。結婚して娘にも恵まれたが、1930年3月10日に自ら命を絶った。

(朝日新聞デジタル記事 山田菜の花 2020年2月17日 9時00分

<https://www.asahi.com/articles/ASN2J6SM9N2JTZNB003.html>参照)

## &lt;10&gt; 「山口の朗読屋さん」から図書館等への要望

「新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館の解除に関する要望」を山口県立図書館長宛に提出した。同様の要望書を山口市立図書館長宛にも提出した。その要望書に対しての図書館からの書面での回答はなく、山口県立図書館からは事務の方から電話で既定方針は変わらないとの返答があった。インターネットでの予約と貸し出しは行なうとの代替案が示されたので、早速ネットでの予約をし、絵本などを借りた。

山口市立図書館長からは、直接電話での回答があり、3月末の閉鎖解除を数日早めるとのことであった。別途、同図書館には、石井昭・影絵の『種田山頭火・うしろすがたのしぐれてゆくか』が三冊所蔵されているが、一冊も所蔵していない小郡図書館や阿知須図書館へ分置してはどうかとの提案をしたのだが、受け入れられなかった。同じ山口市立図書館同士でも、なかなか融通がきかない面があるという印象を受けた。

今後、借りた本の返却など、山口県立図書館と山口市立図書館との具体的連携と協力も進めていただきたい。

山口県立山口図書館長殿

新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館の解除に関する要望

貴図書館では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため3月5日から3月26日まで臨時休館していますが、それは県内の小中学校・高等学校の一律休校に連動したものとされます。

しかし、3月16日より下記の小中学校では、授業を再開すると伝えられています。黒部市・富山市（富山県）、成田市（千葉県）、静岡市（静岡県）宮古島市（沖縄県）ほかの小中学校。山口県においても下関市において3名の新型コロナウイルス感染者が出ていますが、それ以降の下関市内、山口県内での拡大は伝えられていません。

全国の図書館が一斉に休館になっているわけではありませんが、図書館が感染経路になったという報道はありません。屋形船やライブハウス、カラオケが感染のクラスターになっているとの報道はありますが、図書館が感染のクラスターになっているとの報道はありません。

3月9日のNHKの番組で図書館での感染のリスクは低く、図書館の本は、不特定多数の人が触る共有物だが、膨大な量なので感染の確率は低いと報道されていました。また、市内の小中学校・高校が休校になっている中で、子供たちが本を通して学ぶ場、読書の喜びを体験する場としての図書館の役割は、普段以上に重要となっているにもかかわらず、休館を継続することは不適切であると思われます。ただちに消毒、マスク、体温チェックなど感染予防の対策をとっての開館を要望します。閲覧スペースで個人ごとの仕切りパネルを設けるなどの処置をして飛沫感染を予防する対策も考えられると思います。休館を解除できない場合は、その理由を下記あてに3月20日までにお知らせください。

開館する場合も、「高校生以下の児童生徒ならびに乳幼児の入館制限」などをしないように要望します。

2020年3月16日

山口の朗読屋さん 代表 林伸一（〒753-0815 山口市維新公園1-12-5）

## 6. 今後の予定と課題

金子みすゞの詩の広がりをさらに期待するならば、朗読会だけでなくビブリオバトルなどにおいても積極的にみすゞの『空のかあさま』（金子みすゞ／作・新日本教育図書）を紹介することも方策として考えられる。（ビブリオバトルについての詳細は、林2019a参照）

2020年は、コロナ禍のために「福田百合子が囲む朗読会」は、実施できなかったが、2021年1月30日（土）の午後2時～4時「福田百合子が香月泰男を語る—『シベリアの豆の木』朗読会+お話し会」を山口市菜香亭（山口市天花1丁目2番7号）で実施することができた。

古川薫の『シベリアの豆の木—香月泰男ものがたり—』（影絵：石井昭、新日本教育図書、1996）をテキストに朗読し、福田百合子先生が画家・香月泰男について語るお話し会を行ない、参加者28名から好評を得た。また山口の朗読屋さんが『ジャックと豆の木』の紙芝居も上演しながら、同時に童心社からの許可を得てパワーポイントで映写した。

主催は「アーサー・ビナード研究会」（代表：金崎清子）であるが、「山口の朗読屋さん」（代表：林伸一）が共催団体として、企画・運営に当たった。

さらに、2021年2月13日（土）と2月27日（土）の二日に分けて「福田百合子が大内文化を語る—朗読と学びの集い—」をいずれも午後2時～4時、山口市菜香亭（山口市天花1丁目2番7号）を会場にして実施する予定である。

山口県立大学国際文化学部編『大学的やまぐちガイドー「歴史と文化」の新視点』（昭和堂

発行、2011年)所収の「やまぐちの文学者一塔の見える街」(福田百合子)を題材に「山口の朗読屋さん」のメンバーが朗読し、福田先生が大内文化について語る会を前編と後編に分けて2回連続して、開催する予定。主催は「山口の朗読屋さん」であるが、「アーサー・ビナード研究会」(代表:金崎清子)が共催団体として協力することになっている。

絵本は、とかく子供向けの読み聞かせの材料としての扱いを受けるが、大人であっても、シニア世代の年配の人であっても、「読み聞かせ」というより「読み語り」(朗読+お話し)の題材になることが、本報告の朗読会でも確かめられたと思われる。絵本だけでなく、紙芝居も同様である。

(注1) 畑山静枝さんは、里乃駅(旧・ヒュッテ桂谷)ランプの宿のマネージャーで「桂谷通信」、ふるさと通信「きずな」(2020年1月・第10号)を発行している。「山口の朗読屋さん」が2018年の森の学校&森・里山文化祭に招待されて以来のお付き合いである。ランプの宿では、2020年4月5日に桜まつりがあり、「山口の朗読屋さん」とその仲間たちが参加し、大型絵本「すてきな三人組」「おじさんの傘」「ねずみの電車」などを上演した。山口児童館の石丸館長もギターの弾き語りで参加した。

(注2) 「トラよりつよいカエルくん」はチベットの民話をもとにしたもので、金子みすゞ記念館の館長であり、みすゞの詩を世に広めたことで有名な矢崎節夫氏が文を書き、すがわらけいこが絵を描いている。2009年に教育画劇から発行された紙芝居である。

また、お侍さんのはなし紙芝居「三人きょうだい」は、2003年に教育画劇から発行された。もともと菊池寛の作品を矢崎節夫氏が脚色し、大野隆司が絵を描いている。

紙芝居「おおみそかのおきゃくさま」は、年末からお正月にかけて上演すると好評な昔話であるが、矢崎氏の作品で、藤本四郎氏が絵を描いて教育画劇から1998年に発行された。童謡詩人としての矢崎氏が紙芝居作品も手掛けているのである。

矢崎氏は、埋もれていたみすゞの遺稿を見つけ出し『金子みすゞ全集』(JULA出版局)として世に出したことで知られているが、上記のような紙芝居作家でもある。

矢崎氏は『童謡詩人 金子みすゞの宇宙 - みんなちがって みんないい』を出して、全国で講演をしている。1996年から小学校国語教科書や道徳の副読本などで全国の子どもたちがみすゞの詩に触れるようになったのも、同氏の功績大であると思われる。

(注3) 小野寺S一貴が急きょ書き上げ、イラストレーターの高田真弓が怒涛に描き上げた、オリジナル物語。(https://ameblo.jp/jinnosuke-0114/entry-12587116398.html)

#### 【参考文献】

- 石井昭・影絵／古川薫・文(1996)『シベリアの豆の木—香月泰男ものがたり—』新日本教育図書、全40頁、影絵ものがたりシリーズ1、山口県内14図書館所蔵
- 石井昭・影絵／テレビ山口・編(1997)『金子みすゞ・空のかあさま』新日本教育図書、全40頁、影絵ものがたりシリーズ2、山口県内15図書館所蔵
- 石井昭・影絵／古川薫・文(1997)『光をめざして走れ—時代をさががけた吉田松陰—』新日本教育図書、影絵ものがたりシリーズ3、山口県内16図書館所蔵

- 石井昭・影絵／中原中也・原作／福田百合子監修(1998)『中原中也・汚れっちまった悲しみに…』  
新日本教育図書、影絵ものがたりシリーズ4、山口県内17図書館所蔵
- 石井昭・影絵／石寒太・文(1999)『種田山頭火・うしろすがたのしぐれてゆくか』新日本教育図書、影絵ものがたりシリーズ5、山口県内13図書館所蔵
- 石井昭・影絵／中村徹哉・文(1996)『珈琲タイムの考古学』新日本教育図書、山口県内17図書館所蔵
- 石井昭・影絵・文(1997)『僕の東京が燃えた』新日本教育図書、山口県内4図書館所蔵
- 小郡図書館友の会録の子編(2019)『本のなかまたち—山口市読書グループ情報誌—』全26頁、  
非売品(山口市立図書館<https://www.lib-yama.jp/tool/tool200607.html>)
- 金子みすゞ(1984a)『美しい町 新装版 金子みすゞ全集・Ⅰ』JULA出版局
- 金子みすゞ(1984b)『空のかあさま 新装版 金子みすゞ全集・Ⅱ』JULA出版局
- 金子みすゞ(1984c)『さみしい王女 新装版 金子みすゞ全集・Ⅲ』JULA出版局
- 林 伸一(2019a)「ピプリオバトルの現状と問題点—知的書評合戦について—」山口大学人文学部異文化交流研究施設発行『異文化研究』第13号、pp.112-120
- 林 伸一(2019b)「紙芝居と絵本の活用と再評価—『街の朗読屋さん』の視点から—」山口大学文学会発行『山口大学文学会志』第69巻、pp.21-35
- 林 伸一(2020a)「朗読会の可能性を考える—ボランティア・グループ『山口の朗読屋さん』の視点から—」山口大学人文学部国語国文学会発行『山口国文』第43号、pp.132-146
- 林 伸一(2020b)「アーサー・ピナードについての研究—絵本の朗読と図書館の役割を考える—」山口大学文学会発行『山口大学文学会志』第70巻、pp.49-69
- 矢崎節夫(1996)『童謡詩人 金子みすゞの宇宙—みんなちがって みんないい』明治図書

### <謝辞>

まず、本朗読会の実施に当たり、新日本教育図書より『シベリアの豆の木—香月泰男ものがたり—』、童心社より紙芝居『ジャックと豆の木』のパワーポイントでの映写を快く承諾していただいたことを心より感謝致します。誠に、ありがとうございました。

長周新聞社が本文中の記事の転載を快く承諾してくださいましたことを心より感謝致します。特に、同紙に「山口の朗読屋さん」と「アーサー・ピナード研究会」の活動を読者通信として記事をいつも執筆していただいている谷村律弘氏に深くお礼を申し上げます。

また、「こどもと本ジョイントネット21・山口」のブログ上で「山口の朗読屋さん」と「アーサー・ピナード研究会」の活動をいつも詳しく紹介して下さっている山口智子さんに心より感謝致します。特に本報告では、福田百合子先生とChifumiさんの写真の提供と掲載を快諾していただき、さらに同ブログからの引用を許可していただいたことを感謝致します。

さらに、ランプの宿のマネージャー畑山静枝さんからも写真の提供とお言葉をいただき感謝しております。

(はやし・しんいち)